

小単元「1 世界から見た日本」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価基準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価規準)
前期	1 学期	4 月	大単元の導入 ①	・宇宙から見た地球の写真を見て、気づいたことや疑問に思ったことを話し合い、大陸や海洋、日本の国土について調べていこうとする意欲をもつことができる。	【主体的】 宇宙から見た地球の写真を見て話し合うことにより、大陸や海洋の広さ、日本の位置に関心をもち、意欲的に追究しようとしている。
			地球のすがたを見てみると、地球のすがたを知る ①	・地球のすがたを調べることで、地球には、三大洋、六大陸があることを理解するとともに、そこに人々が住んでいる世界の国々や日本の国土について、学習問題や予想をもち、学習計画を立てることができる。	【主体的】 世界の国々や日本の国土について、学習問題や予想をもち、学習計画を立てようとしている。
			世界のさまざまな国々 ②	・地球儀や地図帳を使って、主な国の位置と国旗について調べ、白地図などで日本との位置関係をまとめることができる。	【知・技】 主な国の位置と国旗、日本との位置関係を調べ、白地図にまとめたり、言葉で言い表したりしている。
			日本の位置とはんい ①	・地球儀や地図帳を使って、日本の領土や範囲を調べ、日本の国土の位置と領土、近隣諸国との位置関係について理解することができる。	【知・技】 日本の国土の位置や領土、近隣諸国の位置関係について、白地図に書くことを通して理解している。
			領土をめぐる問題 ①	・日本の領土には、解決しなければならない問題があることを理解するとともに、これまでの学習を振り返り、自分の考えをまとめ、話し合うことで、さらに考えを深めることができる。	【主体的】 これまでの学習を振り返り、予想と違ったことや新たに気づいたことなどを話し合うことにより、さらに考えを深めている。

小単元「2 日本の地形や気候」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価基準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価規準)
前期	1 学期	5 月	四季のある日本の気候と地形 ①	・四季の移り変わりや、特色ある地形の写真を調べることにより、様子が違うのには、地形や気候に関わりがあることに気づき、学習問題や予想をもち、学習計画を立てることができる。	【主体的】 日本の地形や気候に関わる疑問を出し合い、学習問題や予想をもち、学習計画を立てようとしている。
			日本の地形の特色 ①	・日本の地形を地図や写真などで調べ、日本の地形の特色や山脈、高原、盆地などのいろいろな地形について理解することができる。	【知・技】 日本は山がちの地形で中部地方に高い山があることや、日本の川は短く流れが急で、大きな川の下流に平野が広がっていることを理解している。
			日本の火山、つゆと台風 ①	・日本の火山やつゆと台風について調べ、それらが人々のくらしに様々な影響を及ぼしていることを考えることができる。	【思・判・表】 火山活動やつゆ、台風などの日本の気候の特色と人々のくらしを関連づけて考え、表現している。
			地域によってちがう気候 ①	・北海道と沖縄の冬の気温差を示す写真や地図から、日本の気候を調べ、日本は地域によって気候が違うことを理解することができる。	【知・技】 日本の気候は、気温や降水量に変化をもとに、六つの気候区分に分けられることを理解している。
			季節風とくらし ①	・気候の違いは、季節風も関係していることに気づくとともに、これまでの学習を振り返り、自分の考えをまとめ、話し合うことで、さらに考えを深めたり、新たな疑問を生みだしたりすることができる。	【主体的】 これまでの学習を振り返り、自分の考えをまとめ、話し合うことで、さらに考えを深めたり、新たな疑問を生みだしたりしている。

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価規準)
前期	1学期	5月	わたしたちの住む地域と比べて ①	・日本各地の様子と自分の住んでいる地域とを比べ、気候や地形が、そこでのくらしや産業にどのように関連しているのかについて、学習問題や予想をもち、学習計画を立てることができる。	【主体的】 4枚の写真と自分たちの住んでいる地域を比べることなどにより、地形や気候の違いがくらしや産業に関係していることについて、学習問題や予想をもち、学習計画を立てようとしている。
			〔1〕 あたたかい沖縄県に住む人々のくらし 沖縄県の位置と気候 ①	・自分たちが住んでいる地域と沖縄県とを比べることにより、沖縄県は冬が特に暖かく、つゆや台風の影響で降水量が多いことを、地図やグラフなどの資料から読み取ることができる。	【知・技】 地図やグラフ、くらしごよみから、沖縄県の位置や気候の特色、くらしについて、自分たちの住んでいる地域と比較しながら読み取っている。
			気候に合わせたくらし ①	・写真やイラストなどから、台風が多く水不足になりやすいという沖縄県の自然環境と、家づくりの工夫やダムがつくられていることを結びつけて考えることができる。	【思・判・表】 台風や暑さに備えた家のつくりや水不足に対する備えなど、沖縄県の人々が気候に合わせて工夫してくらしていることを考え、表現している。
			あたたかい気候を生かした農業 ①	・沖縄県では、冬に温かく、台風が多い気候の特色に合った農業がおこなわれていることを理解することができる。	【知・技】 沖縄県では、暖かいところで収穫できる農作物だけでなく、出荷時期をずらして菊を作っていることを理解している。

			沖縄県のみりよくとは ①	・写真やグラフから、多くの観光客が沖縄県を訪れるわけを考えることで、沖縄県の自然や文化、歴史が沖縄県の魅力になっていることや、それらが観光業と密接な関連があることを考えることができる。	【思・判・表】 自然や気候、文化、歴史などが沖縄県の魅力になっていることや、それらが観光客の多さと密接な関連があることを考え、表現している。
--	--	--	--------------	--	--

前期	1学期	5月	〔2〕 低地に住む岐阜県海津市の人々のくらし 川に囲まれた土地 ①	・岐阜県海津市の輪中地帯について、古くから土地が川より低いことや、人々が州を堤防で囲んだことなどを、写真や地図などの各資料を関連づけて読み取ることができる。	【知・技】 写真や地図などの資料から、どのように輪中ができたのか、輪中が川よりも低い土地であること、人々が州を堤防で囲んだことなどを、各資料を関連づけて読み取っている。
			水害とむきあう人々 ①	・治水工事や水屋の様子を調べることで、輪中に住む人々は、洪水による大きな被害からどのようにくらしを守ってきたのかを考えることができる。	【思・判・表】 治水工事によりどのように川の流れを変えたのか、また、水屋の被害を減らす工夫について考えている。
			輪中での農業 ①	・輪中地帯の農業は排水が難しいため、堀田などの工夫をし、大変な苦労があったが、現在は土地の改良工事や排水機場などによって、大規模な米作りなどができ、安心して農業ができるようになったことを理解することができる。	【知・技】 輪中地帯では、排水が難しいために堀田をつくるなどの苦労があったが、今では、排水ポンプや土地改良により、安心して農業ができるようになったことを理解している。
		6月	今も続く水害への備え、豊かな自然とともに ①	・水防訓練や水防倉庫の点検、国や県による川の水位の監視など、水害への備えが現在もおこなわれていることや、輪中地帯が水や自然とふれあう魅力あふれる場所になっていることを理解することができる。	【知・技】 海津市の人々が水害への備えを現在も引き続きおこなっているとともに、輪中地帯が水や自然とふれ合い、楽しめる場所となっていることを理解している。
			気降や地形に合わせた人々のくらし ①	・これまでの学習を振り返りながら、沖縄県と岐阜県海津市の気候や地形の特色、くらしや産業の工夫について、二つの地域を比べて、それぞれの特色をシートにまとめ、話し合うことで、自分の考えを深めることができる。	【主体的】 「ふり返しシート」に、くらしや産業の様子を記述し比べることで、予想と違ったことや新たに気づいたことなどを話し合うことにより、さらに考えを深めている。

小単元「1 食生活を支える食料の産地」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価基準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価基準)
前期	1学期	6月	大単元の導入 ①	・自分たちが、日ごろ食べている給食の食材を手がかりに、食生活と食料生産のつながりについて、調べていこうとする意欲をもつことができる。	【主体的】 給食で使われている食材を調べるにより、わたしたちの食生活を支える食料生産に関心を持ち、食材の産地について意欲的に調べていこうとしている。
			産地マップをつくってみると ①	・食料の産地を調べ、気になることを出し合うなかで、くらしに必要な大量の食料について、学習問題や予想をもち、学習計画を立てることができる。	【主体的】 店のちらしなどから食料の産地マップをつくり、話し合うことで、わたしたちが生きていくうえで必要な大量の食料について、学習問題や予想をもち、学習計画を立てようとしている。
			日本の食料の産地 ①	・わたしたちの食生活を支える食料の産地について、地図帳や地球儀、様々な資料を関連づけながら調べ、食料生産は自然条件をいかして営まれていることを理解することができる。	【知・技】 野菜や果物、畜産物を生産する産地は、自然環境と深い関わりをもち、営まれていることを理解している。

			食料生産を支える人たち ①	・食料が自分たちのもとに運ばれるまでを調べるにより、食料生産に関わる人々の働きを考え、今後の学習計画を立てることができる。	【思・判・表】 わたしたちの食生活を支える食料の生産から出荷までの、仕事の工程に関する資料を手がかりに、食料生産に関わる人々の働きを考え、表現している。
--	--	--	---------------	---	--

小単元「2 米作りのさかんな地域」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価基準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価基準)
前期	1学期	6月	わたしたちの食生活と米 ①	・米を使った料理や製品について話し合い、我が国の食生活における米の役割について考えることができる。	【思・判・表】 米は、古くから日本各地で作られ、主食として食べられてきたことや炊いたごはんだけでなく、酒や調味料などの様々な食品に加工されており、生活と深い関わりがあることを考え、表現している。
			米の産地はどこ ①	・米の産地を調べるにより、日本の北の方で米がさかんに作られていることから、学習問題や予想をもち、学習計画を立てることができる。	【主体的】 米の生産量や作付面積の資料などから、さかんにつくられている山形県庄内平野について、学習問題や予想をもち、学習計画を立てようとしている。
			庄内平野のようす ①	・庄内平野の航空写真や土地利用図、グラフなどを関連づけて読み取り、庄内平野の地形や気候の様子をとらえ、米作りがさかんなわけを考えることができる。	【思・判・表】 広くて平らな土地や豊かな水、夏の長い日照時間と高い気温などの庄内平野の地形と気候の様子を資料から読み取り、それらと米作りがさかんなわけについて関連して考え、表現している。
			米作りのようす ①	・五十嵐さんの手紙や農事ごよみをもとに、庄内平野の米作りの様子について調べ、よい稲を育てるための工夫や努力を理解することができる。	【知・技】 庄内平野での米作りには1年を通して様々な作業があり、農家の人たちはおいしい米を大量に作るために工夫や努力をしていることを理解している。
			機械化とほ場整備 ①	・庄内平野の農作業の機械化とほ場整備を調べるにより、効率よく大量に米を生産することができるようになったことを考えることができる。	【思・判・表】 庄内平野では、機械化とほ場整備によって、少ない作業時間で大量の米を作ることができるようになったことを関連して考え、表現している。
			米作りを支える人たち ①	・庄内平野では、試験場や農家、JAなどの品種改良や有機栽培などにより、安全でおいしい米を作る取り組みをおこなっていることを理解することができる。	【知・技】 庄内平野では安全でおいしい米をつくるために、試験場や農家、JAなどの働きによって、品種改良や有機栽培、栽培技術の向上などがおこなわれていることを理解している。

前期	1学期	6月	おいしい米をとどける ①	米の出荷先を調べることで、消費者の求めに応じ、品質を保ちながらいろいろな方法で輸送・販売していることをとらえるとともに、これまでの学習を振り返り、自分の考えをまとめ、話し合うことで、さらに考えを深めることができる。	【主体的】 これまでの学習を振り返り、学習問題について予想と違ったことや新たに気づいたことなどを話し合うことにより、さらに考えを深めている。
----	-----	----	--------------	---	---

小単元「3 水産業のさかんな地域」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価基準）

二期制	三期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価基準)
前期	1学期	7月	わたしたちの食生活と水産物 ①	わたしたちが日ごろから多くの水産物を消費していることを調べることで、日本の水産業について学習する意欲をもつことができる。	【主体的】 日ごろ消費している水産物の種類や量について関心をもち、日本が主な国のなかでも多くの水産物を消費していることを意欲的に調べようとしている。
			めぐまれた漁場 ①	日本のまわりの海を調べることで、日本は良い漁場に恵まれていることから、学習問題や予想をもち、学習計画を立てることができる。	【主体的】 水あげ量が日本一多い銚子港について、学習問題や予想をもち、学習計画を立てようとしている。
			まきあみ漁のようす ①	銚子市の沖合漁業について調べ、まきあみ漁の様子や漁業の仕事に携わる人々の苦労や努力について理解することができる。	【知・技】 魚の習性をいかしながら、まきあみ漁という方法で魚をとっていることや、水産業が自然条件に左右される仕事であることなど、働く人の工夫や苦労を理解している。
			銚子漁港のようす ①	写真やグラフなどから、銚子漁港が水あげした大量の魚をすぐに処理・加工できる施設や漁船の補給施設が充実していることと、水あげ量が日本一であることを結びつけて考えることができる。	【思・判・表】 銚子漁港では、魚種ごとに市場が分かれていること、その周辺には水産関連施設が充実していることなどと、銚子漁港が水あげ量が日本一であることを関連づけて考え、表現している。
			魚がわたしたちのもとへとどくまで ①	魚の輸送について調べ、魚が消費者の求めに応じ、品質を保ちながら輸送・販売していることをとらえ、これまでの学習を振り返り、自分の考えをまとめ、話し合うことにより、さらに考えを深めることができる。	【主体的】 これまでの学習を振り返り、学習問題について、予想と違ったことや新たに気づいたことなどを話し合うことにより、さらに考えを深めている。

			のりの養しよくがさかんな佐賀県 ①	佐賀県でのりの養殖について調べ、のりを育て、刈り取り、出荷するまでの工夫や苦労を理解することができる。	【知・技】 佐賀市ののりの養しよくの様子や資料などから、のりを出荷するまでの働く人の工夫や努力を理解している。
--	--	--	-------------------	---	--

前期	1学期	7月	養しよく業の問題 ①	日本各地でおこなわれている養しよく業について調べることで、養しよく業がかかえる問題についてとらえるとともに、これまでの学習を振り返り、さらに考えたい問題についての自分の考えをノートにまとめて、考えを深めることができる。	【主体的】 養しよく業の学習を振り返り、予想と違ったことや新たに気づいたことなどを話し合うことにより、さらに考えを深めている。
----	-----	----	------------	---	--

小単元「4 これからの食料生産」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価基準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価規準)
前期	1 学期	7 月	食料品の輸入先を調べてみると ①	・主な食料の輸入先と輸入量を調べることにより、我が国の食料の多くが輸入されていることについて、学習問題や予想をもち、学習計画を立てることができる。	【主体的】 我が国の食料の多くが輸入されていることについての学習問題や予想をもち、学習計画を立てようとしている。
			食料自給率の低下 ①	・主な食料の自給率の移り変わりを調べることから、食料輸入が増えている理由を考えることができる。	【思・判・表】 我が国が食料を多く輸入している原因について、農産物の価格や食生活の欧米化などとの関連について考え、表現している。
	2 学期	9 月	世界とつながる、わたしたちの食生活 ①	・食料輸入に対する安全性や食料不足、環境破壊などの問題を、グラフや新聞記事、写真などから、わたしたちの食生活は世界の国々と密接なつながりがあることを読み取ることができる。	【知・技】 輸入食料に対する安全性への不安や食料不足、環境などの問題を、グラフや新聞記事、写真などから必要な情報を読み取っている。
			日本の食料生産をめぐる問題 ①	・日本の食料生産をめぐる問題について、グラフや文章資料などで調べるとともに、これまでの学習を振り返り、自分の考えをまとめ、話し合うことにより、さらに考えを深めることができる。	【主体的】 これまでの学習を振り返り、食料生産の問題について、予想と違ったことや新たに気づいたことなどを話し合うことにより、さらに考えを深めている。
			魚をとりながら保つ取り組み ①	・水産物の資源管理について調べることにより、安定した漁業生産を目指す持続可能な漁業の取り組みや、それに携わる人々の工夫や努力について理解することができる。	【知・技】 水産資源に限りがあるため、漁獲量を維持するための持続可能な漁業の取り組みやそれに関わる人々の工夫や努力、水産物の資源管理について理解している。

前期	2 学期	9 月	むだなく高品質な農作物を作る ①	・米作りでのICT化や次世代型ハウスなどの新しい取り組みについて調べることにより、無駄なく高品質な農作物を作ることによって、安定した農業生産を目指していることを考えることができる。	【思・判・表】 米作りでの ICT 化や米のブランド化、次世代型ハウスの取り組みが、農業の生産性を高め、安定した農業生産につながることを関連づけて考え、表現している。
			国内の食料のよさを知らせる ①	・産地直売所や日本の農産物の輸出などの取り組みを調べるとともに、これまでの学習を振り返り、自分の考えをまとめ、話し合うことにより、さらに考えを深めることができる。	【主体的】 これまでの学習を振り返り、さらに考えたい問題について、予想と違ったことや新たに気づいたことなどを話し合うことで、自分たちには何ができるのかの問題意識を高めようとしている。
			これからの日本の食料生産のあり方を考えよう ①	・これからの日本の食料生産のあり方について、これまで学習したことから、よい方向に向かう取り組みを選び、生産者と消費者の立場でそのよさを考え、今後の自分の行動について関心を深めることができる。	【主体的】 これからの日本の食料生産のあり方や食料消費について、自分たちはどう行動すればよいのかについて、話し合うことにより、さらに考えを深めている。

小単元「1 くらしや産業を支える工業生産」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価基準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価規準)
後期	2 学期	10 月	大単元の導入 ①	・わたしたちの身のまわりには多くの工業製品があることや、様々な工業製品が長い年月の中で改良を重ねて便利になってきたことに関心をもち、工業生産とわたしたちのくらしについて、調べていこうとする意欲をもつことができる。	【主体的】 身のまわりにある工業製品を話し合うことにより、工業生産とわたしたちのくらしに関心をもち、日本でつくられている工業製品や工業の種類について意欲的に調べようとしている。
			いろいろな工業製品 ①	・工業の分類や工業の移り変わりを調べることにより、わたしたちのくらしに欠かせない工業製品がどこでつくられているのかについて、学習問題や予想をもち、学習計画を立てることができる。	【主体的】 日本国内で様々な工業製品がつくられていることに気づき、それらがどこでつくられているのかについて学習問題や予想をもち、学習計画を立てようとしている。

			工業の集まるところ ①	日本には工業のさかんな場所として工業地帯や工業地域があり、それらは太平洋の海ぞいや、人が多く住んでいる場所に多く集まっていること、工業地帯や工業地域が太平洋側にかけて帯のように連なって太平洋ベルトを形成していることなどを理解することができる。	【知・技】 日本の工業がさかんな地域は、太平洋の海ぞいに工業地帯や工業地域として広がり、それらが帯として集まっている地域が太平洋ベルトであることを理解している。
			工業地帯や工業地域の分布と特色 ①	日本の工業地帯や工業地域が太平洋の海ぞいに集まり、太平洋ベルトを形成しているのは、工場を建てる土地や運輸などの交通条件、地域に住んでいる人が多いという社会条件が適していることを結びつけて考えることができる。	【思・判・表】 工業のさかんな地域と、人口や地形、交通といった条件を関連づけ、工業がさかんな地域が条件の適した地域に分布していることを考え、表現している。

小単元「2自動車工業のさかんな地域」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価基準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価規準)
後期	2学期	10月	中京工業地帯のようす ①	中京工業地帯の生産額の多い市町を調べることにより、輸送用機械の生産が多いことに気づき、自動車工場について、学習問題や予想をもち、学習計画を立てることができる。	【主体的】 中京工業地帯の様子を調べることにより、自動車工場や関連工場が多いことから、学習問題や予想をもち、学習計画を立てようとしている。
			自動車工場の見学、自動車が できるまで ①	三重県鈴鹿市にある自動車工場を見学するにあたり、事前に写真や資料で、自動車ができたまでの作業を事前にたしかめ、調べたいことをまとめて見学の視点をはっきりさせることができる。	【知・技】 自動車工場の写真などをもとに、自動車工場は、広い土地でいくつかの工場に分かれていることや、製造過程では様々な作業があることなど、見学の視点となる内容について読み取っている。
			組み立て工場の中のようす、 働く人たちのようす ②	働く人の様子から、効率的に生産するために、働く人たちは作業内容について見直しをはかり工夫していることや、工場では働く人たちが働きやすいように勤務時間や職場の環境について配慮していることを理解することができる。	【知・技】 働く人たちの話し合いの様子から、作業内容の見直しや工夫をしていること、2交代制の勤務ではラインを停止しないで自動車をつくらせていることなどを理解している。

			自動車工場を支える関連工場 ①	関連工場の様子を調べ、関連工場が効率的な仕組みのもとで、部品を自動車工場へ供給することで、品質の高い、無駄のない生産が実現していることを考えることができる。	【思・判・表】 関連工場が効率的な仕組みのもとで、部品を自動車工場へ供給することで、品質の高い、無駄のない自動車の生産が実現していることを考え、自動車工場と関連工場との結びつきを表現している。
--	--	--	--------------------	--	---

後期	2学期	10月	自動車のゆくえ ①	完成した自動車のゆくえを調べることから、外国との関係に着目し、日本の自動車会社は、自動車を国内で生産するだけでなく、外国にある工場でも生産していることを理解することができる。	【知・技】 日本の自動車会社が外国との関係や費用をおさえるために、自動車の生産を外国で生産し、販売することが増えてきたことを理解している。
		11月	安全で人にやさしい自動車 づくり ①	自動車会社がどのような自動車を開発しようとしているのか調べ、安全で人にやさしい自動車の研究・開発がおこなわれていることを理解することができる。	【知・技】 エアバッグや衝突実験など、安全な自動車の研究・開発がおこなわれていることから、すべての人が利用できるよう、人にやさしい自動車の開発がおこなわれていることを理解している。
			環境にやさしい自動車づくり ①	環境にやさしい自動車づくりについてとらえるとともに、これまでの学習を振り返り、自分の考えをまとめ、話し合うことにより、さらに考えを深めたり、広げたりすることができる。	【主体的】 これまでの学習を振り返り、学習問題について、予想と違ったことや新たに気づいたことなどを話し合うことにより、さらに考えを深めたり、広げたりしている。

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価基準)
後期	2学期	11月	食料や原料、製品を運ぶ ①	・農産物や水産物、原料、工業製品はどのように運ばれているのかを調べることにより、外国との関わりについて、学習問題や予想をもち、学習計画を立てることができる。	【主体的】 運輸は産業にとって欠かせない役割であることから、貿易について、学習問題や予想をもち、学習計画を立てようとしている。
			日本の輸入の特色 ①	・日本では、工業の原料やエネルギー資源の多くを輸入していることや、その輸入品が以前と比べて変化してきていることを理解することができる。	【知・技】 日本の工業が、原料やエネルギー資源の多くを海外から輸入していることに気づき、その輸入品が移り変わっていることを理解している。
			日本の輸出の特色、貿易のはたらき ①	・輸出品の変化を調べることにより、これまでの日本の工業は、貿易や運輸に支えられ、加工貿易という形で発達してきたことと、貿易によって世界の国々と結びつきがあることを関連づけて考えることができる。	【思・判・表】 これまでの日本の工業は、貿易や運輸によって支えられ、加工貿易という形で発達してきたことや貿易によって世界の国々と結びつきがあることを関連づけて考え、表現している。
			これからの貿易 ①	・貿易をめぐる様々な問題を調べ、工業生産では、それらの問題による影響があることや、外国との関わりも配慮しながら貿易をおこなう必要があることをとらえるとともに、これまでの学習を振り返り、学習問題について、自分の考えを話し合うことで、さらに考えを深めたり、新たな疑問を生み出したりすることができる。	【主体的】 これまでの学習を振り返り、学習問題について、予想と違ったことや新たな疑問を話し合うことにより、これからの工業生産について関心をもち、意欲的に追究しようとしている。

後期	2学期	11月	大工場と中小工場、中小工場の多い大阪府東大阪市 ①	・日本の大工場と中小工場の様子を調べることから、中小工場に関心をもち、東大阪市の中小工場の様子について、グラフや文書資料などから読み取ることができる。	【知・技】 大工場と中小工場の違いや、東大阪市の中小工場の様子をグラフや写真から読み取っている。
			高い技術と工場のつながり ①	・高い技術をもつ中小工場がそれぞれ協力して、より優れた製品をつくりだしていることを理解することができる。	【知・技】 中小工場では、高い技術をいかして生産するだけでなく、互いに協力してより品質の高い製品をつくっていることを理解している。
			社会の変化に合わせた工業生産 ①	・工業生産に関わる会社や工場が、社会の変化に合わせて、高い技術を生かしながら、新しい部品や工業製品をつくっていることを理解することができる。	【知・技】 工業生産に関わる会社や工場が、人材不足の解消や環境負荷の低減などの社会の変化に対応して、高い技術をいかしたり、IoTを活用したりすることで、新しい部品や工業製品をつくりだしていることを理解している。
			これからの工業生産のあり方を考えよう ①	・中小工場のもつ高い技術と、協力関係や工業生産をさかんにするための取り組みについての学習を振り返り、自分の考えをまとめ、話し合うことにより、これからの工業の発展についてさらに考えを深めることができる。	【主体的】 これまでの学習を振り返り、さらに考えたい問題について、予想と違ったことや新たに気づいたことなどを話し合うことで、これからの工業の発展についてさらに考えを深めている。

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価基準)
後期	2学期	11月	大単元の導入 ①	・くらしのなかにある様々な情報について関心をもち、どのような情報を、どのように入手しているのかを調べようとする意欲をもつことができる。	【主体的】 情報社会に生きる自分たちのくらしに関心をもち、どのような情報を、どのような方法で手に入れているのかを意欲的に追究しようとしている。
			メディアの特ちょうとは ①	・様々なメディアの特徴について調べること、情報の伝え手に関心をもち、身近な新聞社を取り上げ、学習問題や予想をもち、学習計画を立てることができる。	【主体的】 くらしに役だつ情報を様々なメディアから利用するなかで、役だつ情報がたくさん書かれている新聞について、学習問題や予想をもち、学習計画を立てている。
		12月	新聞の情報 ①	・新聞紙面の構成や記事の内容を調べることを通して、新聞社がどのような紙面づくりをおこなっているのかについて関心をもち、見学の視点をはっきりさせることができる。	【思・判・表】 情報の収集や選択など、新聞ができるまでに関わる疑問をもち、表現している。
			情報が記事になるまで ①	・新聞社では、取材記者が様々な情報を収集し、取材して記事を書いていることを理解することができる。	【知・技】 取材記者が、社会でどのような出来事が起きているのか情報を集め、取材して記事を書いていることを理解している。

月

			新聞がわたしたちのもとに どくまで ①	・新聞ができるまでを調べることで、新聞社が正確な情報を早く読者に届けるために、収集した情報を選択・加工して紙面をつくり、届けていることを理解することができる。	【知・技】 正確な情報を早く読者へ届けるために、多くの人が関わって新聞がつくられていることを理解している。
--	--	--	------------------------	---	---

後期	2学期	12月	情報の伝え方とそのえいき よう ①	・二つの新聞記事を比べることや、捏造記事、報道被害に関する資料を調べることで、新聞社は情報を選択し、意図をもって伝えていること、マスメディアによる情報発信によって社会やわたしたちに大きな影響を及ぼすことがあることを理解することができる。	【知・技】 マスメディアによる情報発信は、社会に大きな影響を及ぼすことや、報道被害を受ける人たちがいることもあるとともに、まれに捏造した情報があることを理解している。
			マスメディアとわたしたち の関わりを考える、メディア の発達と交流の手段の変化 ①	・これまでの学習を振り返り、マスメディアの情報をどのように受けとめればよいかを話し合うなかで、個人でも情報発信ができることや、世界中の人たちと情報を瞬時に交流することができるようになっていることをとらえるとともに、さらに考えたい問題や予想をもち、学習計画を立てることができる。	【主体的】 インターネットの利用拡大や情報通信機器の急速な広まりによって、情報の発信や交流は個人でもおこなわれるようになったことから、情報の取り扱いについて、さらに考えたい問題や予想をもち、学習計画を立てようとしている。
			情報社会の問題 ①	・情報社会についての様々な問題から、これからの情報の扱い方について、自分の考えを表現することができる。	【思・判・表】 これからインターネットを使う際に情報をどのように取り扱えばよいのか、自分の考えを表現している。

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価基準)
後期	3 学期	1 月	気象情報とわたしたちの暮らし ①	・天気予報がふだんのくらしでどのように役だっているか話し合うことで、くらし以外の産業でも気象情報がどのように役だっているのかに関心をもつことができる。	【主体的】 くらしのなかでの気象情報の活用を振り返り、産業では気象情報がどのように役だっているのか、関心をもとうとしている。
			気象情報を生かしたサービス ①	・気象情報を提供している会社がどのような情報を入手しているのかを調べることで、産業における情報活用について、学習問題や予想をもち、学習計画を立てることができる。	【主体的】 気象情報を提供する会社の人の話から、情報がくらしだけでなく産業にも影響があることから、気象情報を利用している会社について、学習問題や予想をもち、学習計画を立てようとしている。
			商品をおいしく食べてもらうために ①	・アイスクリームをつくる会社での予測情報の活用の様子について調べたり、考えたりすることを通して、この会社ではいつもできたての新鮮な商品を消費者に届けるために、生産量を決めたり、輸送の計画を立てたりするときの判断材料として予測情報をいかそうとしていることを理解することができる。	【知・技】 アイスクリームをつくる会社では、生産量を決めたり、輸送の計画を立てたりするときの判断材料として予測情報を生かそうとしていることを理解している。
			できたての商品をとどけるために ①	・とうふをつくる会社での予測情報の活用の様子について資料などを調べることを通して、この会社では、これまでの見込みではなく、必要な量を生産できるようになったことを読み取ることができる。	【知・技】 とうふをつくる会社での予測情報の活用の様子を、予測情報の資料やインタビューから読み取っている。
			情報を生かすうえでたいせつなことは ①	・アイスクリームをつくる会社ととうふをつくる会社での予測情報の活用を比較して、予測情報を活用するうえで大切なことについて考え、表現することができる。	【思・判・表】 これまでに調べた二つの事例を比較して、予測情報を活用するうえで大切なことについて考え、表現している。

後期	3 学期	1 月	広がる産業での情報活用 ①	・販売情報の活用の様子を手がかりにして、情報化の進展にともなう産業の発展によって、様々なサービスが生まれ、わたしたちの生活がより便利になっていることを理解することができる。	【知・技】 情報化の進展にともなう産業の発展によって、わたしたちの生活がより便利になっていることを理解している。
			これからの情報の生かし方を考えよう ①	・情報社会のよさと課題について、これまでの学習を振り返り、話し合うことを通して、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について自分の考えをまとめることができる。	【主体的】 情報社会のよさと課題について話し合ったことをもとに、これからの社会で情報をいかすために大切なことを、産業と国民の立場から考えようとしている。

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価基準)
後期	3学期	2月	大単元の導入 ①	・戦後の暮らしや環境に関わる主な出来事を調べ、日本が急激に工業化が進み、暮らしの変化や公害の発生がもたらされたことに関心を持ち、国土の環境について調べていこうとする意欲をもつことができる。	【主体的】 戦後の暮らしや環境に関わる年表を調べることで、暮らしが豊かになったものの、様々な環境問題などがおこっていることに関心を持ち、公害や環境問題、自然災害について意欲的に調べていこうとしている。
			四日市市でおきた公害 ①	・四日市市で起きた公害の様子を調べることで、被害の大きさと被害をなくす取り組みについて、学習問題や予想を持ち、学習計画を立てることができる。	【主体的】 四日市市で起きた公害で、空気のごれ、悪臭、騒音などにより多くの人々が苦しんだこと、今では改善されていることから、学習問題や予想を持ち、学習計画を立てようとしている。
			立ち上がる人々と公害裁判 ①	・公害に苦しむ人々と関係した人たちの取り組みを調べ、人々の思いや考えを表現することができる。	【思・判・表】 公害に対する取り組みをもとにして、当時の人々の思いを考え、表現している。
			きれいな空気を取りもどすために、日本各地でおきた公害 ①	・国や自治体、企業の公害対策や四大公害についてグラフや資料で調べ、公害のおそろしさや、それを防ぐための人々の努力とともに、今も苦しむ人があることを読み取ることができる。	【知・技】 二つのグラフの読み取りと教科書に掲載されている資料を関連させ、環境が改善されていったことを読み取っている。

			環境先進都市をつくるために ①	・公害を語り継ぐとともに、取り戻した環境を守り、よりよくするための四日市市の取り組みを調べることで、環境保全の重要性や一人一人の協力の大切さを理解することができる。	【知・技】 四日市市では、公害を語り継ぐ取り組みや環境をよりよくする取り組みなどを市や企業、市民がともにおこなっていることを理解している。
--	--	--	-----------------	--	---

後期	3学期	2月	わたしたちにできることを考えよう ①	・これまでの学習を振り返り、持続可能な社会を実現するために、わたしたちが協力することの大切さに気づき、環境の未来について自分たちができることを考えることができる。	【主体的】 これまでの学習を振り返り、学習問題について、予想と違ったことや新たに気づいたことなどを話し合うことにより、環境を守るために、自分たちにできることについて考えようとしている。
----	-----	----	--------------------	---	--

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価基準)
後期	3学期	2月	豊かな森林にめぐまれた日本 ①	・日本の森林の様子を調べ、人工林が増えていることについて、学習問題や予想を持ち、学習計画を立てることができる。	【主体的】 わたしたちの生活は森林と関わりがあることをとらえ、森林には天然林と人工林があることや、人工林が増加してきたことから、日本の森林について学習問題や予想を持ち、学習計画を立てようとしている。
			森林を育て、守る人々 ①	・写真やグラフなどから、林業に携わる人々の仕事の様子調べ、苗木から育て、木材として出荷するまでには、長い年月と多くの作業が必要であり、様々な工夫や努力をしていることや、木材の利用量や林業従事者数の減少などの林業の課題を理解することができる。	【知・技】 林業に携わる人々の仕事の様子を調べ、木を育てるには、長い年月と多くの作業が必要であることを読み取り、林業に携わる人々の工夫や努力を理解している。

			森林がはたす役わり ①	・間伐をしていない人工林と、間伐をしている人工林を調べ、手入れをしない人工林が増えると、国土の保全や水源の涵養などの森林の役割が弱まり、わたしたちの暮らしにも影響がでることを結びつけて考えることができる。	【思・判・表】 手入れをしない人工林が増えると、国土の保全や水源の涵養などの森林の働きが弱まり、わたしたちの暮らしにも影響がでることを考え、表現している。
			森林資源を活用する取り組み ①	・間伐材の利用や、公共施設での木材の利用などの、国産木材の利用量を増やすための取り組みを調べ、木材を積極的に利用することが、林業を活性化させ、日本の人工林を守ることにつながることを理解することができる。	【知・技】 国産木材の利用量を増やすための取り組みを調べ、国産木材を積極的に利用することは、人工林を守ることにつながることを理解している。

後期	3学期	2月	自然を守る取り組み ①	・狭山丘陵や小笠原諸島の自然を守る取り組みについて調べ、人々の願いや努力、多くの人々の協力によって、日本には豊かな自然が残されていることや、豊かな自然を守るために大切なことを考え、表現することができる。	【思・判・表】 人々の願いや努力、多くの人々の協力によって、日本には豊かな自然が残されていることや、豊かな自然を守るために大切なことを考え、表現している。
			自然を守るために、わたしたちにできること ①	・これまでの学習を振り返り、自然環境を守るためには国民一人一人の協力が必要であることに気づき、自然を守るために自分たちができることを考えることができる。	【主体的】 これまでの学習を振り返り、学習問題について、予想と違ったことや新たに気づいたことを話し合うことにより、自然を守るために、良い考えだと思ったことや自分にできることを話し合い、考えを深めることができる。

小単元「3自然災害から人々を守る」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価基準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価基準)
後期	3学期	3月	さまざまな自然災害、日本の自然災害 ①	・日本で起こっている自然災害を調べることに より、地形と気候との関わりについて、学習 問題や予想をもち、学習計画を立てることが できる。	【主体的】 日本で起きた主な自然災害を調べ ることにより、いつでもだれでも被害にあうか もしれないことから、学習問題や予想をもち、 学習計画を立てようとしている。
			自然災害がおきやすい国土 ①	・日本でおこる地震の回数や地震発生のメカニ ズム、日本の降水量を調べ、日本が世界のな かでも自然災害が起きやすい国であることを 読み取ることができる。	【知・技】 日本が地震の起きやすい場所に位 置していることや、地震や津波がおこる仕組み について地図やイラストなどから読み取って いる。
			困難な暮らしと支え合う人々 ①	・東日本大震災発生直後の人々の暮らしの様子 を調べ、自然災害がわたしたちの暮らしに大 きな影響を及ぼすことを理解することができ る。	【知・技】 自然災害が発生すると、命を絶た れたり、大切な人を失ったりすることや、住居 やプライバシー、ライフラインの確保など、困 難な生活を余儀なくされるため、人々の協力が 不可欠であることを理解している。
			産業へのえいきょう ①	・自然災害がもたらす産業への被害について調 べ、自然災害によって水産業や農業、工業、 運輸業などに大きな影響がでるとともに、こ れまでの学習を振り返り、学習問題につい て、自分の考えを話し合うことで、さらに考 えを深めたり、新たな疑問を生み出したりし ている。	【主体的】 これまでの学習を振り返り、学習 問題について、予想と違ったことや新たな疑問 を話し合うことにより、自然災害に対する備え や取り組みについて関心をもち、意欲的に追究 しようとしている。

後 期	3 学 期	3 月	自然災害に備えるために ①	国や都道府県，市町村などが，自然災害からわたしたちの命や暮らしを守るために，防災施設をつくるとともに各種情報の発信，避難の勧告や指示，避難場所の整備などに取り組んでいることを理解することができる。	【知・技】 国や都道府県・市町村などが，砂防ダムや防潮堤など，自然災害の被害を減らすための防災施設を整備していることを理解している。
			自分たちの命と地域は自分たちで守る ①	これまでの学習を振り返り，自然災害から命や大切なものを守るために，自分にはどのような備えが必要かを考えることができる。	【主体的】 これまでの学習を振り返り，学習問題について，予想と違ったことや新たに気づいたことを話し合うことにより，自然災害から自分たちの命を守るために，どのような備えが必要かを考えようとしている。